

# FIVA リカバリーマニュアル <sup>G番 :MPC-225BS/225BL</sup>)



お買い上げいただき、まことに有難うございました。 本書はMPC-22BS/22BLのリカバリー方法について、簡単に正しく理解できるように書 かれております。



## - 目次 -

#### 第1章 Bモードリカバリ編

1.はじめに 3

- 2.本体と外部サーバー間リカバリーのための前準備 5
- 3.単サーバーと単クライアン 間のリカバリー 7
- 4.単サーバーと複数クライアン h間のリカバリー 9
- 5.サーバーとクライアン 間リカバリーイメージについて 10
- 6.Bモードリカバリー [ハードディスクブート版] 12
  6-1.メニューの "1"を選択 ŴINDOWS2000 領域のバックアップ』() 13
  6-2.メニューの "2"を選択 ŴINDOWS2000 領域の復元』() 15
- 7.Bモードリカバリー [PCカードブート版] 27 7-1.メニューの"1"を選択 パードディスク全体のバックアップ (サーバーへ)』() 28 7-2.メニューの"2"を選択 パードディスク全体の復元 (サーバーから)』() 29 7-3.メニューの"4"を選択 肱張メニュー』 30
  - 8.補足

8-1. PCカードブート版リカバリーのPCカード作成 44 8-2. ブータブルのリカバリー CDROM 作成方法 46

#### 第2章 リカバリーCD - ROM編

- *1.*はじめに 53
- 2.リカバリCD-ROM の機能概要 53
  - 2-1. ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール」について 53 2-2. 保守領域へのリカバリプログラムのインストール」について 53
- 3.デバイス類の準備 54
- *4.*リカバリCD-ROMの操作説明 54
  - 4-1 デバイス類のセット 54
  - 4-2 BIOS の設定 55
  - 4-3 ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール 56
  - 4-4 保守領域へのリカバリプログラムのインストール 58
- 5.WINDOWS2000 をインストールする 59

第3章 Windows2000インストール編 60

*1.*はじめに 61

- 2.セットアップまでの手順 61
- *3.*HDの準備 61
- 4.デバイス類の準備 62
- 5.起動FDの作成 62
- 6.セットアップデータの準備 65
- 7.セットアップの実行 66
- 8.ドライバおよびアドオンソフトについて 66

8-1 ドライバのセットアップ 66

8-2 アドオンソフトのセットアップ 68







# 1.はじめに

#### <u> B モードリカバリーについて</u>

本体のソフトスイッチを操作して、起動方法を変えることにより、その片方でリカバリーシステムを起動することができます。この リカバリーシステムを、Bモードリカバリーと呼びます。

Bモードリカバリーには、<u>ハードディスクブート版</u>と<u>PCカードブート版</u>があります。

前者の基本機能は、Windows2000 **領域(C ドライブ)のバックアップ( )と、復元( )**です。

後者の基本機能は、**ハードディスクまるごとバックアップ( )と復元( )**です。これを行うには、PC<mark>カードに専用のアプリケ</mark> ーションを入れておく必要があります。

双方とも、拡張機能として、上記以外の数種類のリカバリーを行えます。

別頁において、下図の ~ の説明をしていきます。







#### <注意!>

#### 外部PCへバックアップ及び復元させる為には、Symantec Ghost マルチキャストサーバーが必要になります。 この機能を利用する為には、別途ご購入していただく必要があります。

Symentec Ghost マルチキャストサーバーとは、SYMANTEC 社の Symantec Ghost Ver.6.5 に含まれるユーティリティです。 < Symantec Ghost Ver.6.5 に関しての情報はこちら > http://www.symantec.co.jp/

MPC-225に搭載しているSymantec Ghost 6.5は、スタンドアローン(単体)で動作する権利です。(スタンドアローンユー ティリティ扱い)マルチキャストサーバを使用する場合、ライセンスを取得しなければなりません。そのライセンスは、 クライアント数で決まります。また、これはライセンスだけの購入ですので、CD-ROMが1つ必要になります。これは、別 途購入が必要です。またこのソフトに、マルチキャストサーバとクライアントソフトが入っています。クライアントソフ トは、MPC-225に搭載の物と同一のものです。

またこの見積もりは、Webから可能となっております。

必要なシステム等の情報は、

http://www.symantec.com/region/jp/products/ghost65/system.html#price

核バージョン	Crea N/A N/A N/A 8811 800初回購入時は アップグレード(探検、ライ 入可能です。)(約1)購入1よ	ted: Oct 16 2001 4:25F 6 製品説明 センスメディアバックを必わ	M	14 <b>8</b> 2	予想小売	散量	승광
核パージョン 在有効期限 客名 歴ナンパー 売代理店 品ナンバー MANTEC ton AntiVirus製品 ューライセンス、 イセンスから属)	Crea N/A N/A N/A 8811 8811 この初回購入時は アップグレード(探検、ライ 入可能です。)的加速入は	ted: Oct 16 2001 4:25F 6 製品説明 センスメディアバックを必ろ	M	间降	予想小売	截量	승화
核有効期限 客名 歴ナンバー 売代理店 品ナンバー MANTEC Ion AntiVirus製語 コーライセンス。 イセンスから構わ	N/A N/A N/A 8811 8の初回購入時は アップグレード(探検、ライ 入可能です。)的加速入は	6 製品設明 センスメディアバックを必3	1	14.182	予想小売	截量	승計
客名 歴ナンパー 売代理店 晶ナンパー <b>MANTEC</b> ton AntiVius製品 ユーライセンス、 イセンスから構わ	N/A N/A 8811 800初回購入時は アップグレード(環境、ライ 入可能です。通知購入は	6 製品説明 センスメディアバックを必ま	ł	14.182	予想小売	散量	승좖
歴ナンバー 売代理店 品ナンバー (MANTEC ton AntiVirus製品 ューライセンス、 イセンスから構)	N/A 8811 800初回購入時は アップグレード(探検、ライ 入可能です。)的加速入は	6 製品説明 センスメディアパックを必ま	i	14 82	予想小売	散量	승計
売代理店 <b> 開</b> ナンバー <b> (MANTEC</b> ton AntiVirus製品 ユーライセンス から続わ	8811 品の初回購入時は アップグレード(服練、ライ 入可能です。追加購入」は	6 製品説明 センスメディアバックを必ま	1	14 82	予想小売	散量	송計
品ナンバー <b>MANTEC</b> ton AntiVirus製品 ユーライセンス、 バセンスから構7	島の沖刀回膳入時は アップグレード(服象、ライ 入可能です。)自知基入は1	製品説明 センスメディアバックを必ま	i	14 162	予想小売	散量	승計
MANTEC ton AntiVirus製品 コーライセンス、 シイセンスから構え	島の初回購入時は アップグレード保険、ライ 入可能です。追加購入は	センスメディアバックを必っ					
MANTEC-2 00-02917-1N	Symantec Ghost 6.5 Win9 ライセンスメディア Norton Cihost (英語版) 6	10ライセンスからとなります 5/98 Win NT ライセンス - ンス ンマ ンマ 55 Windows95/98/Me/NT/	100-5-5-7セ 2000/Linux ラ	×	¥1.760 25-99 ¥3,000	25	¥44,000 ¥3,000
	12225	「イアバック - (使用語子語もな)	, * <b>消費税、送</b> 見積 見積確	制まき 合計す 2/Ep)	None まれてい と再確認す 副ボタンを	*小計 ません。 るには、 クリック。	¥47,000
計算/保存	新たな見積を作成	「製品を追加」	見積確認/日			別価格を	T12
	0-02917-1N <del>1第八家存</del> )	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 6 イセンスメラ	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 6.5 Windows95/98/Me/NT/ イセンスメディアパック - 使用許諾なし	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 6.5 Windows95/98/Me/NT/2000/Linux ラ イセンスメディアパック - 使用許諾なし *消費税、送 見積 見積確 見積確 # <u>第/保存 新たな見稿を作成</u> <u>第品を追加</u> <mark>見積確認/日</mark>	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 6.5 Windows95/98/Me/NT/2000/Linux ラ イセンスメディアパック - 使用許諾なし *消費税、送税まさ 見枝合計で 見枝確認/印 調/保存 新たな見機を作成 新品を添加 見積確認/印別	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 6.5 Windows95/98/Me/NT/2000/Linux ラ X ¥3,000 イセンスメディアパック - 使用許諾なし *消費税、送料は含まれてい 見積合計を再確認す 見積確認/印刷ボタンを: #算/保存 新たな見風を作成 新品を追加 見積確認/印刷	0-02917-IN Norton Ghost (英語版) 65 Windows95/90/Me/NT/2000/Linux ラ X ¥3,000 イセンスメディアパック - 使用許諾なし None *消費税、送料は含まれていません。 見積合計を再確認するには、 見積確認/印刷ボタンをクリック。 #2/保存 新たな見稿を作成 減品を追加 見積確認/印刷 特別価格を行



#### 分割バックアップファイル(スパン)

本体(FIVA)内で閉じたバックアップ作業は、2Gバイトごとに自動で分割された、単独または複数のファイルとして作成されます。(2Gバイトスパン) 2Gバイトを超えなければ、1つのバックアップファイルが生成されます。

**本体(FIVA)からサーバーへのバックアップ作業は、600Mバイトごとに自動で分割された、単独または複数のファイル**として作成されます。(600Mバイトスパン) サーバー側には十分な容量のHDDを準備してください。

#### NTFSフォーマット領域の復元

Windows2000 領域とユーザー領域は、NTFSフォーマットであり、この領域の復元処理を行った場合、Windows2000 再起動時、 NTFSボリュームチェック操作が実行されます。これを通して、OSが起動してはじめて復元が完了します。

本体(FIVA)内での閉じたパックアップにおける制約(重要)

Windows2000 領域またはユーザー領域を、リカバリー領域へバックアップする時、まずエリアの使用領域(%)を確認してくださ い。それが約80%を超えている場合は、バックアップは行わないでください。約80%を超えた領域をバックアップすることは できますが、後にこれを復元することができなくなる可能性があります。 これは、GHOST(リカバリーツール)がバックアップまたは復元において、転送先に十分な容量を要求してくることから起こ ることです。

#### <u>製品購入後のリカバリー作業(必須)</u>

製品購入後、順序として、Windows2000 のセットアップを実行し、それが完了したら、Windows2000 **領域のバックアップ**を行ってく ださい。(第1章ハードディスクブート版の、Windows2000 領域のバックアップ())を参照)

#### <u> バックアップデータのブータブルリカバリーCDROM化について</u>

バックアップデータを CDROM に保存し、CDROM からリカバリーする事が可能です。詳細については、「第1章補足」の「ブータ ブル CDROM の作成方法 (46 ページ)」を参照して下さい。



# 2.本体と外部サーバー間リカバリーのための前準備

予め、Symentec Ghost **マルチキャストサーバーの環境を準備**する必要があります。本体とPCサーバー間で、下図のようにLANを 構築します。各IPアドレスは、双方が異なる任意の値です。



外部PCサーバーに、Symentec Ghost マルチキャストサーバーをインストールします。 下図は、マルチキャストサーバー起動画面です。

texietu名 (メージファイル		(€ 25472)Httt=h*(1)	C かけわけかられつが回) 
€ F4X9⊈ € 1°-74347(P)			- わらいを増やす(型)>>>
IP 71-72	MAC 71/4x	状態	
			363
			中正的
速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接線、ていらからかか 0
**7	NEXもっています	★毎月8番6日 	供物の たうちくアット ロ

次に、<mark>外部PCサーバー側</mark>の、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。値は任意ですが、他サーバー、他クライアントと値が 重複しないように注意してください。下の設定は例です。



にす。サポートされているい場合は、メ ださい。	ネットワーク管理者	北流	Ita IP :	说定如而()	合わせ
○ 1P アドレスを自動的に取得する	w				
🕫 )አው IP ምドレスを使う(S):					
IP ምドレスው	132	1	64	100	
サブネット マスク <b>レ</b> ト	265	265	255	0	
デフォルトゲートウェイロ>	ĺ.				
C DNS サーバーのアドレスを自動	00003766				
○ 次の DNS サーバーのアドルスを	使迎	1	-	181	
優先 DNS サーバー(D)					
these many at the day				-	

次に、クライアント側の、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。ファイル(WATTCP.CFG)をテキスト編集します。値は 任意ですが、他サーバー、他クライアントと値が重複しないように注意してください。下の設定は例です。

WATTCP.CFG は隠しファイルとなっております。予め隠しファイルを表示させておく必要があります。

ファイル ( wattep.cfg ) のパス: E:¥GHOST¥WATTCP.CFG

┛ WATTOP.OFG - メモ帳	- O ×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) ヘルブ(H)	
IP = 132.1.64.90	*
NETMASK = 255.255.255.0	
GATEWAY =	
	-
1	► //.

これでLANの構築は完了です。



# 3.単サーバーと単クライアン間のリカバリー

サーバー間とのリカバリーのやり取りは、同セッション名どうしで行われます。クライアント(FIVA)の各パーティションに割り当てられているセッション名は次のとおりです。



サーバーとクライアントは、各々、異なる特定のIPアドレスを設定します。IP値は任意です。



以下の例は、Windows2000 領域<mark>バックアップ時</mark>の、マルチキャストサーバー設定です。 イメージファイルの欄は、サーバー側にバックアップするファイル名を指定します。

			/ <sup>任意</sup>
📱 PX740MC1 - Gho	ost Multicast Server		
ファイル(E) 表示(⊻)	^ルフ°( <u>H</u> )		/
セッション名	SESS1	<ul> <li>ウライアントトニロート「① /</li> </ul>	<ul> <li>クライアントからタシフ (D)</li> </ul>
イメージファイル	Fギゴーストイメージ¥px740mc1	.eho	<u>────────────────────────────────────</u>
<ul> <li>○ ディスク型</li> <li>○ パーティション(P)</li> </ul>			オフ ションを増やす(0) >>
IP アドレス	MAC アドレス	│状態	
			送信(S)
			中止①
速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているクライアント 0
% 完了	MB 残っています	残归時間	失敗したりライアント 0
		/ 設定し終えたら押下	



以下の例は、Windows2000 領域<mark>復元時</mark>の、マルチキャストサーバー設定です。 イメージファイルの欄は、サーバー側に保存されているファイルを指定します。





## 4.単サーバーと複数クライアント間のリカバリー

単サーバーと複数クライアント間で、異なるリカバリーを同時に行うこともできます。**各々のセッション名を設定することにより、異なるリカバリーを識別できます**。サーバーとクライアントは、各々、異なる特定のIPアドレスを設定します。IP値は任意です。



PCサーバー側のマルチキャストサーバー画面にて、各々、セッション名を設定します。セッション名が、"SESS1"のウインドウは、 クライアント1及びクライアント2とリカバリーを行うことができ、"SESS2"のウインドウは、クライアント3と、"SESS3"のウインド ウは、クライアント4と行うことができます。

<mark>判</mark> ses_P - Gh ファイル(E) 表:	ost Multicast Serv 〒(⊻) ^/レフ°( <u>H</u> )	ver			
セッション名 イメーシファイル で ディスクの	SES 11_ses_Q - Ghost 771ル(E) 表示()	S1 Multicast Server Ø NJ/7°(H)	© クライアント៲᠋ードϢ	ତ	
● パーライショ IP アト・レス	セッション名 イメーシファイル 〇 ディスクロ	SESS2 <sup>11</sup> 1 ses_R - Ghost Mu ファイル(E) 表示(V)	・ クライアント Iticast Server ヘルフ (円)	ニロード( <u>L)</u> C クライアントカン 	6%7°@ 
建度 (MB// % 完了	<ul> <li>パーティション(P)</li> <li>IP アト・レス</li> </ul>	セッション名 イメーシウァイル で ディスク型 で パーティション(P)	SESS3	<ul> <li>๑ לקלדטאים-איע</li> </ul>	<ul> <li>○ クライアントからダンフ<sup>®</sup>(<u>D</u>)</li> <li>参照(<u>B</u>)</li> <li>オフ<sup>®</sup>&gt;ょンを増やす(<u>O</u>) &gt;&gt;</li> </ul>
۹ <u>۱</u>	 速度(MB/分) % 完了	<u>IP ፖ</u> ኑኄ	MAC ፖኑህス	状態	<u></u>
		, 速度 (MB/分) % 完了	MB 転送しました MB 残っています	経過時間 残り時間	接続しているカライアント 0 失敗したクライアント 0 //



## 5.サーバーとクライアン間リカバリーイメージについて

本体(クライアント)からサーバーへ、領域またはディスクのバックアップを行う時、**イメージファイルが600Mバイトを超える場** 合、ファイルが複数に分割して作成されます。これらは数珠繋ぎに連結された属性をもっています(**スパンイメージ**)。



600Mバイトごとのスパン作成は、イメージファイルを**ブータブルCDROM化**することを想定しています。詳細は、第1章補足の **ブータブルのリカバリーCDROM作成方法(46ページ)**を参照。



# Bモードリカバリー [ハードディスクブーH版]

## 6 Bモードリカバリー[ハードディスクブート版]

本体のスイッチをBモード側に倒した後電源投入すると、Bモードリカバリー[ハードディスクブート版]が起動しま す。Windows2000 領域(Cドライブ)のリカバリー(バックアップまたは復元)が可能です。拡張機能では、その他数 種類のリカバリーが可能です。

電源投入後は、リカバリーメニューがロックされているので、これを解除する必要があります。特定のキーワードを 入力することにより、ロックが解除され、リカバリーメニューに入ることができます。



キーワード:FIVA このキーワードは変更できません。

以降、B モードリカバリー基本メニューの、1.2.4.を説明します。



## 6 - 1 .メニューの "1" を選択 Windows 2000 領域のバックアップ』 ()

ハードディスク内の別パーティション(リカバリー領域)に、Windows2000 領域の圧縮されたイメージファイルが保存 されます。



Windows2000 領域バックアップファイルを、少なくとも1つ作成することができます。リカバリー領域の容量がゆる せば、第2世代までの Windows2000 領域バックアップファイルを作成できます。バックアップが実行されるたびに、 既存の Windows2000 領域バックアップファイルは古い順に消去されていきます。

バックアップファイルが2Gバイトを超えると、自動的に次のスパンを作成します。2Gバイトごとにファイルが分 割されて作成されます。

注意)リカバリー領域の空容量が、ある領域をバックアップするに足りる容量であると思われる場合でも、空容量不足 エラーを起こすことがあります。

例)Windows2000 領域のバックアップを行い、空のリカバリー領域内に、2.4Gバイトのバックアップファイルが生成されました。リカバリー領域の残容量が約2.6Gバイト(5G-2.4G)のところに、続けて同領域をバックアップしようとしても、バックアップが実行されない可能性があります。



空容量不足の表示は次の通りです。表示の意味は、空領域が足らないが、スパンを有効にして他エリアの容量も共有 することにより、バックアップを実行していいかどうかを聞いてきます。

Question:	
? There may not	be enough space - Enable Spanning ?
Yes	No

開始直後に、上図のメッセージが現れたら、"NO"を選択し、直ちにバックアップを中断してください。 バックアップを可能にするには、リカバリー領域に存在するバックアップデータを他の場所に移動する必要があります。



# 6 - 2 .メニューの "2" を選択 Windows 2000 領域の復元』()

ハードディスク内の別パーティション(リカバリー領域)に保存してある、Windows2000 領域バックアップファイル を、Windows2000 領域に復元します。領域はすべて上書きされます。



リカバリー領域には、Windows2000 領域バックアップファイルが少なくとも1つ保存することができ、容量がゆるせば、第2世代までの Windows2000 領域バックアップファイルを保存できます。第2世代ファイルが存在する時の復元は、どちらかを選択することができます。



# 6-3.メニューの"4"を選択 拡張メニュー』

Windows2000 領域のバックアップ / 復元を含む、各種リカバリーが可能です。 マトリックスの見方は、横軸エリアから縦軸エリアへのバックアップまたは復元を行います。 アルファベッドの記入がされている部分のリカバリーが可能です。

" A "を選択 " P "を選択	Windows2000 領域を、リカバリー領域内へファイル保存。(  )
Dを選択	Windows2000 領域を、外部リーバーバノアイル体持。(一)
" C " を選択	ユーザー領域を、リカバリー領域内へファイル保存。(  )
"D"を選択	ユーザー領域を、外部サーバー内へファイル保存。( )
"E"を選択	リカバリー領域に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、
	Windows2000 領域へ復元。(  )
"F"を選択	リカバリー領域に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。
	( )
" G " を選択	外部サーバー内に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、
	Windows2000 領域へ復元。(  )
"H"を選択	外部サーバー内に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。
	( )

from	WIN2000 AREA	USER AREA	RECOVERY AREA	SERVER	DISK ALL
WIN2000 AREA	*	*	Е	G	*
USER AREA	*	*	F	Н	*
RECOVERY AREA	А	С	*	*	*
SERVER	В	D	*	*	*
DISK ALL	*	*	*	*	*
0 : DOS	5プロンプト			1:基	本メニュー
マトリッ	クスの記号	を選択する	と、リカバ	リーが開始	されます

以降、A~Hの説明をしていきます。



マトリックスの "A" を選択 Windows2000 領域を、リカバリー領域内へファイル保存』()



Windows2000 領域バックアップファイルを、少なくとも1つ作成することができます。リカバリー領域の容量がゆるせば、第2世代 までの Windows2000 領域バックアップファイルを作成できます。バックアップが実行されるたびに、既存の Windows2000 領域バック アップファイルは古い順に消去されていきます。

バックアップファイルが2Gバイトを超えると、自動的に次のスパンを作成します。2Gバイトごとにファイルが分割されて作成されます。

**注)**リカバリー領域の空容量が、ある領域をバックアップするに足りる容量であると思われる場合でも、空容量不足エラーを起こす ことがあります。

例)Windows2000 領域のバックアップを行い、空のリカバリー領域内に、2.4Gバイトのバックアップファイルが生成されました。 リカバリー領域の残容量が約2.6Gバイト(5G-2.4G)のところに、続けて同領域をバックアップしようとしても、バック アップが実行されない可能性があります。



空容量不足の表示は次の通りです。表示の意味は、空領域が足らないが、スパンを有効にして他エリアの容量も共有することにより、 バックアップを実行していいかどうかを聞いてきます。

Question:		
? There may not be enough space	-Enable Spa	anning ?
Yes	No	

開始直後に、上図のメッセージが現れたら、"NO"を選択し、直ちにバックアップを中断してください。 バックアップを可能にするには、リカバリー領域に存在するバックアップデータを他の場所に移動する必要があります。



### マトリックスの"E"を選択

<u>『リカバリー領域に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領域へ復元』</u> ( )



リカバリー領域には、Windows2000 領域バックアップファイルが少なくとも1つ保存することができ、容量がゆるせば、第2世代までの Windows2000 領域バックアップファイルを保存できます。第2世代ファイルが存在する時の復元は、どちらかを選択することができます。



マトリックスの "C"を選択 ユーザー領域を、リカバリー領域内へファイル保存』()



リカバリー領域の容量がゆるせば、ユーザー領域バックアップファイルを、第1世代ないし第2世代まで作成することができます。 バックアップが実行されるたびに、既存のユーザー領域バックアップファイルは古い順に消去されていきます。 バックアップファイルが2Gバイトを超えると、自動的に次のスパンを作成します。つまり、2Gバイトごとにファイルが分割されて 作成されます。

e EE3, 19473 Hb BAGNESTATimoge AND Publich Steel (19452 No

SYMANTEC.

#### 注意1)

リカバリー領域の空容量が、ある領域をバックアップするに足りる容量であると思われる場合でも、空容量不足エラーを起こすことがあります。(第1章ハードディスクブート版 Windows2000 領域のバックアップ(12ページ)参照)

#### 注意 2)

リカバリー開始時に、<u>容量オーバーのメッセージ</u>が出た時は直ちに、リカバリーを中止してください。バックアップを再度実行したい 場合は、保存されているバックアップファイルを確認後、DOS上で既存バックアップファイルを削除してから行ってください。



#### マトリックスの"F"を選択

◎ 助バリー領域に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元』()



リカバリー領域に、ユーザー領域バックアップファイルが存在する時は、それを復元することができます。第2世代までのユーザー 領域バックアップファイルが存在する時は、そのどちらかを選択して復元することができます。



### マトリックスの"B"を選択

Windows2000 領域を、外部サーバーへファイル保存』()

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備(4ページ)参照)

<クライアント(<sub>FIVA</sub>)側>

Windows20	000領域を、イメージバックアップします	
保存先 セッション名 ファイル名	外部サーバー SESS1 *_GHO	
[ノート] イメージファイ 新たに関連ファ	ルが600Mバイトを超えた時は、 マイルが作成されます	
マルチキャスト	サーバーをスタンバイにしてください	
バックアップを	開始してよろしいですか? (YまたはN)	
<サーバー 你部PC	」 サーバー側にて、マルチキャストサーバーな )側 > ▼	をスタンパイにする
単 PX740MC1 - Ghos ファイル(E) 表示(V)	t Multicast Server ∼NJ7°( <u>H</u> )	
セッション名	SESS1 0 75177/HEI-H*(L)	かライアントからタンフジロ)
イメージファイル	F¥ゴーストイメージ¥px740mc1.gho	参照(日)
<ul> <li>C ディスク型</li> <li>C パーティション(P)</li> </ul>		オフジョンを増やす( <u>Q</u> ) >>
IP ፖኑՆス	MAC アドレス 状態	クライアントを受け入れる(A)
		送信⑤
		中正①
速度(MB/分) % 完了	MB 転送しました 経過時間 MB 残っています 残り時間	接続しているクライアント 0 失敗したクライアント 0
 クライアントの接続待ち・・	··	
< クライアン	クライアント側こて、"Y"を選択 ハト(FIVA)側>	
Harts	n Shari 2001 - Ceppright (O 1998-2000 Synantes Cerporalise	
1	hayasi bakatar I	
	Na menangan (MS)	
	htali sventko tya land	
	Note: Long Long Long Long Long Long Long Long	
	Note: Second Land Land Anno E33, 19472 166 Second Land Anno E33, 19472 166 Second Land Anno E3400071Nanaya KBM annof zethian U/1 Tauno (2012), San (1948) 96, No (Net) URLIN (2012) (2012), San (1948) 96, No (Net) URLIN (2012) (2012) SYMANTEC	



### マトリックスの"G"を選択

<u>
外部サーバー内に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領域へ復</u>
元』()

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。(" 第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備(4 ページ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

W indows 2000領域を復元します
復元元 ーーー 外部サーバー セッション名 SESS1
[確認] Windows2000領域はすべて上書きされます
マルチキャストサーバーをスタンバイにしてください
復元を開始してよろしいですか? (YまたはN)

<サーバー (外部PC)側>

サーバー側にて、マルチキャストサーバーをスタンバイにする

セッション名	SESS1	・ クライアントニロード(①)	ウ りライアントからダンフ (D)
イメーシファイル	「F洋ゴーストイメージ¥px740mc1.g	参照(8)	
<ul> <li>ディスク型</li> <li>パーティション(<u>P</u>)</li> </ul>	1 07 NTFS 5004	4Mb 976Mb ምትጵ 👱	
IP アドレス	MAC アドレス	状態	クライアントを受け入れる(A)
			送信(S)
			<u> 中正①</u>
速度(MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているクライアント 0

- <クライアント(FIVA)側>
- クライアント側こて、"Y"を選択



クライアント側リカバリー実行中画面



マトリックスの"D"を選択

<u> ローザー領域を、外部サーバー内へファイル保存』()</u>

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備(4ページ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

ユーザー領域を、イ	イメージバックアップします		
保存先 - セッション名 - ファイル名 -	外部サーバー SESS2 *.GHO		
[ノート] イメージファイル/ 新たに関連ファイ	が600Mバイトを超えた時は、 ルが作成されます		
マルチキャストサー	ーバーをスタンバイにしてください		
バックアップを開	始してよろしいですか? (Yまた)	ŧN)	
サーバー(外部PC)低	↓ サーバー側に	こて、マルチキャストサーバー	をスタンバイにする
9 八 (7日) C ) F	Multicast Server		_OX
ファイルビノ 家の ロノー ヘ	SESS2	C ウライアントicaードϢ	かライアントカンらなシファ(D)
イメージファイル <b>[</b>	F¥ゴーストイメージ¥px740mc2.gho		参照(8)
<ul> <li>C 7<sup>3</sup>√2500</li> <li>C 1<sup>3</sup>√-7√23<sup>3</sup>7(P)</li> </ul>		<b>•</b>	
IP 75°22	MAC アドレス お	大熊	
			送信(S)
」 速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているクライアント 0
% 完了	MB 残っています	残り時間	失敗したりライアント 0
クライアントの接続待ち・・・			
<クライアント(	FIVA)側 > *1 2231 Copyright (2) 1932 2282 Synaptics Corporation *1 2005 1933 2282 Synaptics Corporation *1 2005 1935 2283 Synaptics Corporation *1 2005 1935 1937 195 ************************************		
	SYMANTEC.	クライア	ント側リカバリー実行中画面



### マトリックスの"H"を選択

<u>
 外部サーバー内に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。(</u>) 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備(4ページ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

ユーザー領域を行	复元します		
復元元 – セッション名 -	ーーー 外部サーバー SESS2		
[確認] ユーザー領域は	すべて上書きされます		
マルチキャストサ	ーバーをスタンバイにしてください		
復元を開始してよ	:ろしいですか? (YまたはN)		
	サーバー側に	こて、マルチキャストサーバ・	ーをスタンバイにする
< サーバー (外部PC) 🏭 PX740MC2 - Ghos	側> st Multicast Server		
ファイル(E) 表示(V)	^⊮フ°( <u>H</u> )		
セッション名	SESS2	<ul> <li>ウライアンドニロード(①)</li> </ul>	ウ カライアントからダンフ (D)
イメージファイル	┣F¥ゴーストイメージ¥px740mc2.gh	0	参照(8)
<ul> <li>C ディスク型</li> <li>C ハ<sup>0</sup>−ティシゅ<sup>1</sup>/(P)</li> </ul>	1 07 NTFS 2533	Mb 538Mb データ	オプションを増やす(Q) >>
IP 75%	MAC 71/2	状態	
			14(=/c)
			1016 W
]			
▶ 速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間 1540年間	接続しているクライアントの
% 完了	MB 残っています	残り時間	矢取した974パント U
クライアントの接続待ち・			
	クライマント	側にて " V " 友選択	
< クライアン	≻(FIVA)側>		
Marten I	Sact 2801 Copyright (C) 1998-2808 Symantec Corporation		
(11)	prati Edicator 🗋		
	215 541	75x 500x	
	and the second s	~	
	remain 5514		
(Int)	an andres type	~	
Bart Core Core	Inglas Local Bile (3-CORST-Unrage, ERM) with profiles 1/2 Tapen (2-602), Sec 19452 No. 160 NEW out the CORDUPY/CHIC SC 200		
	EVALANTIE		



# Bモードリカバリー [PCカードブー H版 ]



# 7.Bモードリカバリー[PCカードブート版]

専用のPCカードを本体に挿入し電源投入すると、Bモードリカバリー[PCカードブート版]が起動します。ハードディス ク丸ごとリカバリー(バックアップまたは復元)が可能です。拡張機能では、その他数種類のリカバリーが可能です。

また、専用PCカードの作成方法については、別頁にて説明してあります。("**PCカードブート版リカバリーのPCカード作成**"参照)

PCカードブートさせるには予め、本体のBIOS設定にて、PCカードブートを有効にしておく必要があります。また、 Bモードスイッチは無関係です。

電源投入後は、**リカバリーメニューがロック**されているので、これを解除する必要があります。特定のアルファベットを入 力することにより、ロックが解除され、リカバリーメニューに入ることができます。



以降、上のメニューの、1.2.4.を説明します。



# 7-1.メニューの"1"を選択 パードディスク全体のバックアップ(サーバーへ)』()

本体ハードディスクの内容を、パーティションを含め丸ごと、外部サーバーへ、圧縮イメージファイルとして保存します。 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ペー ジ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

ハードディスク全体を、イメージバックアップします	
保存先 外部サーバー セッション名 SESS123 ファイル名 *GHO	
[ノート] イメージファイルが600Mバイトを超えた時は、 新たに関連ファイルが作成されます	
マルチキャストサーバーをスタンバイにしてください	
バックアップを開始してよろしいですか? (YまたはN)	

<サーバー (外部PC)側>

サーバー側にて、マルチキャストサーバーをスタンバイにする

パーシファイル     F¥       ディスク型     F¥       ディスク型     IF       アパーティション(P)     III       IP アドレス     M       東度 (MB/分)     ディア       ライアントの接続待ち・・・	ゴーストイメージ¥px740mc1 AC アト゚レス MB 転送しました MB 残っています	23.gho	参照(日)         オフジョンを増やす(Q) >>         クライアントを受け入れる(A)         送信(G)         単止(T)         接続しているクライアント       0         失敗したクライアント       0
<ul> <li>ディスク①</li> <li>ディスク①</li> <li>ハ<sup>2</sup>ーティション(P)</li> <li>IP アドレス</li> <li>M</li> <li>健(MB/分)</li> <li>完了</li> <li>ライアントの接続待ち・・・</li> </ul>	AC アドレス MB 転送しました MB 残っています	【状態 経過時間 残り時間	オフジョンを増やす(Q) >>         ケライアントを受け入れる(A)         送信(S)         単止(T)         接続しているクライアント 0         失敗したクライアント 0
: パーティジョン(P) IP アトシス M 度 (MB/分) 完了 	AC アドレス MB 転送しました MB 残っています	【状態 経過時間 残り時間	
<u>P アドレス M</u> 度 (MB/分) 完了 イアントの接続待ち・・・	AC アドレス MB 転送しました MB 残っています	」状態 経過時間 残り時間	ケライアハを受け入れる(A)           送信(S)           中止①           接続しているケライアント 0           失敗したクライアント 0
度(MB/分) 完了 (アントの接続待ち・・・	MB 転送しました MB 残っています	経過時間 残り時間	送信(S) 中止(D) 接続しているクライアント 0 失敗したクライアント 0
度(MB/分) 完了 イアントの接続待ち・・・	MB 転送しました MB 残っています	経過時間 残り時間	中止① 接続しているクライアント 0 失敗したクライアント 0
度 (MB/分) 完了 イアントの接続待ち・・・	MB 転送しました MB 残っています	経過時間 残り時間	接続しているクライアント 0 失敗したクライアント 0
完了 イアントの接続待ち・・・	MB 残っています	残り時間	失敗したりライアント 0
イアントの接続待ち・・・			
イアントの接続待ち・・・			
<クライアント <sub>(FIV</sub>	A)側 >	ント側こて、"Y"を選択	
Hortes Shart 200	1 Experiph (C) 1998-2008 Symanles Corporation dar 275 NRS	718 1005	
Planet and Faced Normal Research Research Research This second Class second Class second	10 10 1514 1534 163 1645	))	

クライアント側リカバリー実行中画面

SYMANTEC.



## 7.2.メニューの"2"を選択 パードディスク全体の復元(サーバーから)』()

外部サーバー内に保存されているハードディスクバックアップファイルを、本体ハードディスクへ復元します。 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ページ) 参照)

<クライアント(FIVA)側>



クライアントの接続待ち・・・

<クライアント(FIVA)側>

クライアント側にて、"Y"を選択



クライアント側リカバリー実行中画面



" L "を選択

# 7-3.メニューの"4"を選択 拡張メニュー』

本体ハードディスク全体のバックアップ / 復元を含む、各種リカバリーが可能です。 マトリックスの見方は、横軸エリアから縦軸エリアへのバックアップまたは復元を行います。 アルファベッドの記入がされている部分のリカバリーが可能です。

- "A"を選択 Windows2000 領域を、リカバリー領域内へファイル保存。()
- "B"を選択 Windows2000 領域を、外部サーバーへファイル保存。()
- "C"を選択 ユーザー領域を、リカバリー領域内へファイル保存。()
- "D"を選択 ユーザー領域を、外部サーバー内へファイル保存。()
- "E"を選択 リカバリー領域に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領 域へ復元。()
- "F"を選択 リカバリー領域に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。()
- "G"を選択 外部サーバー内に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領 域へ復元。()
- "H"を選択 外部サーバー内に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。()
- "I"を選択 リカバリー領域を、外部サーバー内へファイル保存。( )
- "J"を選択 外部サーバー内に保存してあるリカバリー領域バックアップファイルを、リカバリー領域へ復元。() "K"を選択 ハードディスク丸ごと、外部サーバー内へファイル保存。()
  - 外部サーバー内に保存してあるハードディスクバックアップファイルを、ハードディスク全体へ復元。 ( )



以降、A~Hの説明をしていきます。



マトリックスの "A" を選択 - 
Windows2000 領域を、リカバリー領域内へファイル保存』()



Windows2000 領域バックアップファイルを、少なくとも1つ作成することができます。リカバリー領域の容量がゆるせば、 第2世代までの Windows2000 領域バックアップファイルを作成できます。バックアップが実行されるたびに、既存の Windows2000 領域バックアップファイルは古い順に消去されていきます。

SYMANTEC.

バックアップファイルが2Gバイトを超えると、自動的に次のスパンを作成します。2Gバイトごとにファイルが分割され て作成されます。

**注**)リカバリー領域の空容量が、ある領域をバックアップするに足りる容量であると思われる場合でも、空容量不足エラーを起こすことがあります。

例)Windows2000 領域のバックアップを行い、空のリカバリー領域内に、2.4Gバイトのバックアップファイルが生成され ました。リカバリー領域の残容量が約2.6Gバイト(5G-2.4G)のところに、続けて同領域をバックアップしよう としても、バックアップが実行されない可能性があります。



空容量不足の表示は次の通りです。表示の意味は、空領域が足らないが、スパンを有効にして他エリアの容量も共有することにより、バックアップを実行していいかどうかを聞いてきます。

Question:				
? There may not be enough space - Enable Spanning ?				
	Yes		No	

開始直後に、上図のメッセージが現れたら、"NO"を選択し、直ちにバックアップを中断してください。 バックアップを可能にするには、リカバリー領域に存在するバックアップデータを他の場所に移動する必要があります。



#### マトリックスの"E"を選択

<u>『リカバリー領域に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領域へ</u> 復元』()



リカバリー領域には、Windows2000 領域バックアップファイルが少なくとも1つ保存することができ、容量がゆるせば、第2世代までの Windows2000 領域バックアップファイルを保存できます。第2世代ファイルが存在する時の復元は、どちらかを選択することができます。


マトリックスの "C"を選択 『ユーザー領域を、リカバリー領域内へファイル保存』()



リカバリー領域の容量がゆるせば、ユーザー領域バックアップファイルを、第1世代ないし第2世代まで作成することがで きます。バックアップが実行されるたびに、既存のユーザー領域バックアップファイルは古い順に消去されていきます。 バックアップファイルが2Gバイトを超えると、自動的に次のスパンを作成します。つまり、2Gバイトごとにファイルが 分割されて作成されます。

e (11, 19473 Hb e (2005) \image.600 in (2005) \image.600

SYMANTEC.

リカバリー領域の空容量が、ある領域をバックアップするに足りる容量であると思われる場合でも、空容量不足エラーを起こすことがあります。(第1章ハードディスクブート編 Windows2000 領域のバックアップ(12ページ)参照)

注意)

リカバリー開始時に、<u>容量オーバーのメッセージ</u>が出た時は直ちに、リカバリーを中止してください。バックアップを再度 実行したい場合は、保存されているバックアップファイルを確認後、DOS上で既存バックアップファイルを削除してから行 ってください。



### マトリックスの"F"を選択

<u>『リカバリー領域に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元』()</u>



リカバリー領域に、ユーザー領域バックアップファイルが存在する時は、それを復元することができます。第2世代までの ユーザー領域バックアップファイルが存在する時は、そのどちらかを選択して復元することができます。



### マトリックスの"B"を選択

### <u>Windows2000 領域を、外部サーバーへファイル保存』()</u>

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ページ) 参照)

<クライアント(PX740)側>

W indows2000領域を、イメージバックアップします	
保存先 外部サーバー セッション名 SESS1 ファイル名 *GHO	
[ノート] イメージファイルが600Mバイトを超えた時は、 新たに関連ファイルが作成されます	
マルチキャストサーバーをスタンバイにしてください	
バックアップを開始してよろしいですか? (YまたはN)	

<サーバー (外部PC)(則 >

サーバー側にて、マルチキャストサーバーをスタンバイにする

2771745	SESS1	C クライアントモロート*(L)	かライアントからタンフ°(D)
イメージファイル	F:¥ゴーストイメージ¥px740mc1	gho	参照(目)
<ul> <li>ディスク型</li> <li>パーティション(P)</li> </ul>			
IP ፖドレス	MAC アドレス	│状態	
			送信(5)
			中止①
 速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているクライアント 0

<クライアント(FIVA)側>

クライアント側こて、"Y"を選択



クライアント側リカバリー実行中画面



### マトリックスの "G "を選択

<u>外部サーバー内に保存してある Windows2000 領域バックアップファイルを、Windows2000 領域へ</u> 復元』()

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。(" 第 1 章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備 " (4 ペー ジ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

Windows200	)0領域を復元します					
復元元 - セッション名 -	ーーー 外部サーバー SESS1					
[確認] Windows200	00領或はすべて上書きさ	れます				
マルチキャストサ	サーバーをスタンバイにし	てください				
復元を開始して。	よろしいですか? (Ya	Etalan)				
< サーバー (外部PC	)側>	サーバー側に <sup>.</sup>	て、マルチキャストサーノ	(ーをスタ)	ンパイにする	
<sup>≝</sup> 』PX740MC1 - Gho ファイル(E) 表示(⊻)	st Multicast Server					<u>- 0 ×</u>
セッション名	SESS1		€ クライアントトニロード(ᢕ	C ·	りライアントからタンフ <sup>。(</sup> <u>D</u> )	
イメーシファイル	F¥ゴーストイメージ¥	px740mc1.gho			▶照( <u>8</u> )	
<ul> <li>C ディスク型</li> <li>C パーティション(P)</li> </ul>	1 07 NTFS	5004 Mb	976Mb データ	~	オフジョンを増やす(①	)) >>
IP ፖドレス	MAC ፖドレス	状			ケライアントを受け入れる	( <u>A</u> )
					送信( <u>S</u> )	
					中止①	
, 速度(MB/分)	MB 転送U	しました	経過時間		接続しているクライアント	0
% 完了	MB 残っ1	ています	残り時間		失敗したりライアント	0
クライアントの接続待ち・						1.
< クライアン	ト (FIVA) 側 > Cool 2001 Copyright CO 1995 2003 200 Provest Date of the E2 2025 Control Copyright CO 1995 2003 200 E2 2025 E2 2025 E3 2025 E3 2025 E4 2025 E4 2025 E5 10 100 E5 10 E5 100 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10 E5 10	クライアント側 analace Corporations 583 73				

クライアント側リカバリー実行中画面

SYMANTEC.



### マトリックスの"D"を選択

### **ローザー領域を、外部サーバー内へファイル保存』()**

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。( " 第1 章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備 " (4ページ) 参照)

<クライアント(FIVA)側>

ユーザー領域を、イメージバックアップします
保存先 外部サーバー セッション名 SESS2 ファイル名 *.GHO
[ノート] イメージファイルが600Mバイトを超えた時は、 新たに関連ファイルが作成されます
マルチキャストサーバーをスタンバイにしてください
バックアップを開始してよろしいですか? (YまたはN)

<サーバー (外部PC)側>

クライアントの接続待ち・・・

📲 PX740MC2 - Ghost Multicast Server \_ 🗆 × ファイル(E) 表示(V) ヘルプ(H) ○ クライアントトコート(L) ○ クライアントからタシフペ(D) セッション名 SESS2 F洋ゴーストイメージ¥px740mc2.gho イメージファイル 参照(日)... C 74270 わションを増やす(Q)>> -MAC アドレス IP アドレス 状態 ウライアントを受け入れる(A) 送信(S) 中止① 速度(MB/分) MB 転送しました 経過時間 接続しているクライアント 0 残り時間 %完了 MB 残っています 失敗したクライアント 0

サーバー側にて、マルチキャストサーバーをスタンバイにする

ライアント	(FIVA	)側 >	<b>↓</b>			•
Martin G	Nort 2401 C	99999M (C) 1998-20	188 Symanter Corporatio	•••		
		85	141	Яx	iles	
		7 10 2514 113 105 113		)	7	
This Com South East Corre	to action type in Autom of partition at the	Local Local drive CII. Local New DYNN 1/3. Turne D'412 UNXXXVIIII (	19473 H6 DTVInings ABD 1. Saw 19409 Ma, H0 MIPE 4.00	~		

ント側リカバリー実行中画面



### マトリックスの"H"を選択

**外部サーバー内に保存してあるユーザー領域バックアップファイルを、ユーザー領域へ復元。(**) 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ページ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

ユーザー領域を	復元します		
復元元 - セッション名 ·	ーーー 外部サーバー SESS2		
[確認] ユーザー領域は	すべて上書きされます		
マルチキャストさ	サーバーをスタンバイにして	てください	
復元を開始して。	よろしいですか? (Yまた	EldN )	
・サーバー (外部PC)	)側>	トーパー側にて、 マルチキャストサーノ	<b>ヾ</b> ーをスタンバイにする
■ PX740MC2 - Gho ファイル(E) 表示(A)	st Multicast Server		
セッション名	SESS2	♥ ウライアントi=n-ト*(_)	♥ かライアントからなシフペロ)
イメーシファイル	F≇ゴーストイメージ¥p>	(740mc2.gho	参照(图)
<ul> <li>C ディスクΦ</li> <li>C ディスクΦ</li> <li>C パーティション(<u>P</u>)</li> </ul>	1 07 NTFS	2533Mb 538Mb 7°∽9	
IP ፖԻՆス	MAC ፖドレス	状態	りライアントを受け入れる(A)

 送信⑤)

 速度(MB/分)
 MB 転送しました
 経過時間
 接続しているクライアント 0

 ※完了
 MB 残っています
 残り時間
 失敗したクライアント 0

クライアントの接続待ち・・・

< クライアント(FIVA)側 >

クライアント側にて、"Y"を選択



クライアント側リカバリー実行中画面



### マトリックスの 1 "を選択

### <u>『リカバリー領域を、外部サーバー内へファイル保存』()</u>

\_\_\_\_\_\_ 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。( " 第 1 章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備 " (4 ページ) 参照)

< クライアント(FIVA)側 >

リカバリー領域	<u>を</u> 、イメージバックアップします		
保存先 セッション名 ファイル名	外部サーバー SESS 3 *.GHO		
[ノート] イメージファイJ 新たに関連ファ	レが600Mバイトを超えた時は、 イルが作成されます		
マルチキャスト	ナーバーをスタンバイにしてください		
バックアップを	開始してよろしいですか? (Yまた	an)	
、サーバー (外部PC	)側> ♥ サーバー側	<b>ルこて、マルチキャストサーバー</b>	をスタンバイにする
<sup>4</sup> 1 PX740MC3 - Gho ファイル(E) 表示(⊻)	ost Multicast Server ∧ルフ°( <u>H</u> )		
セッション名	SESS3	C 55172HCD-K(L)	
イメージファイル		sho	参照(8)
<ul> <li>ディスク型</li> <li>パーティション(P)</li> </ul>		2	オブションを増やす(@) >>
IP ፖドレス	MAC ፖի՞レス	状態	りライアントを受け入れる(A)
			送信(5)
			中止①
速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているクライアント 0

クライアントの接続待ち・・・

クライアント側こて、"Y"を選択



クライアント側リカバリー実行中画面



### マトリックスの "」"を選択

<u> **外部サーバー内に保存してあるリカバリー領域バックアップファイルを、リカバリー領域へ復元。(**) 準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ページ)参照)
</u>

<クライアント(FIVA)側>

リカバリー領域を	復元します					
復元元 ー・ セッション名 -	ーー 外部サーバ・ SESS3	-				
[確認] リカバリー領域は	すべて上書きされます	<del>;</del>				
マルチキャストサ・	ーバーをスタンバイに	してください				
復元を開始してよ	ろしいですか? (Y३	またはN)				
< サーバー (外部PC	)側>	サーバー側にて	、マルチキャスト	<b>・サーバーを</b> ス	<b>スタンバイにする</b>	
PX740MC3 - Ghos フーイル(F) ままのの	st Multicast Server					<u>_                                    </u>
- ファ1ル(ヒ) 家で示(⊻)			C h5/7041-0-4	30.5	C 45/77/kth/86/27/(D)	
	SESS3	Vov710mo2.sho	кел уулу уласы -н		そ四/四	
1メーソファ1ル の ディスクの		+bx140mco.Buo			1974R.\D/	
	1 06 Fat16	2047Mb	1 Mb データ	<b>*</b>	オフジョンを増やす(	<u>o) &gt;&gt;</u>
IP ፖドレス	MAC ፖドレス	状態			クライアントを受け入れ	5( <u>A</u> )
					送信(S)	1
」 連度 (MB/公)	MB 東天谷	€1 ≠1 た	经调查期			i
%完了	MB 残っ	-OLAUCIC っています	残り時間		失敗したりライアント	0
」 ' クライアントの接続待ち・・						
< クライアン	ト(FIVA)側>	クライアント側に	こて、"Y"を選択			
Harter	(Basel 2001) Copyright (C) 1990-2009 Ingrati Indicator <sup>1</sup>	Symantex Corporation				
	* 255	545 75X	inter			
	Address and the state	~	1.1			
	recommended by 15514					
(2	anala nanalahan kasa janad					
433	ethiches Fried Mile 2008051 read parties 1/2 Taxes 0/402120 read te 0/2020-00002_5522	Tenangen, FREE 1941 (1946): Million (1947): 1941 (1946): Million (1947):				
	S	MANTEC.		カニノマい		
				クライアン	ト側リカハリー実行中画面	



### マトリックスの"K"を選択

<u>
「ハードディスク丸ごと、外部サーバー内へファイル保存』()</u>

準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。("第1章外部サーバーとリカバリーを行うための前準備"(4ページ)参照)

< クライアント(FIVA)側 >

ハードディスク全	本を、イメージバックアップします	
保存先 - セッション名 - ファイル名 -	外部サーバー SESS123 *GHO	
[ノート] イメージファイル 新たに関連ファイ	が600Mバイトを超えた時よ ´ルが作成されます	
マルチキャストサ	ーバーをスタンバイにしてください	
バックアップを開	始してよろしいですか? (YまたはN)	
	サーバー側にて、マルチキャストサ	ーバーをスタンバイにする
ナーバー(外部PC) PX740MC123 - Gh ァイル(E) 表示(V)	(側> ost Multicast Server ヘルフ°(円)	×
 セッション名	SESS123 C からイアントトロートギリン	<ul> <li>ウライアントカッらタンフ (D)</li> </ul>
<mark>イメーシファイル</mark> の テシスカの	F.¥ゴーストイメージ¥px740mc123.gho	参照(8)
$\mathbf{C}$ $\mathcal{N}^{\circ}$ - $\mathcal{F}_{A}\mathcal{Y}_{B}\mathcal{Y}(\underline{P})$		✓ オフジョンを増やす(Q) >>
IP ፖኑህス	MAC アト・レス 状態	
		送信(6)
		中正①
速度(MB/分)		接続しているケライアントの
◎元1	MB がまっています がまりで守留」	天照した9717プト 0
15イアントの接続待ち・・	•	
< クライアント	>(FIVA)側 > クライアンド側にて、"Y"を選択 (FIVA)側 > のなど 2001 Copyright (C) 1999-2003 Symaches Corporation yest 1.5k day	
	CO VI	
Con	SYMANTEC	
	ク <u> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</u>	ライアント側リカパリー実行中画面



### マトリックスの"L"を選択

<u> 外部サーバー内に保存してあるハードディ</u>	スクバックアップファイルを、	<u>ハードディスク全体へ復元』()</u>
準備;マルチキャストサーバーの環境が必要です。	("第1章外部サーバーとリカバリー	を行うための前準備 " (4ページ)参照)

<クライアント(FIVA)側>

ハードディスク全体	を復元します			
復元元・ セッション名	ー 外部サーバー SESS123			
[確認] ハードディスク全体	はすべて上書きされます			
マルチキャストサーノ	バーをスタンバイにしてください			
復元を開始してよろし	しいですか? (YまたはN)			
	」 サーバー側に	こて、マルチキャストサーノ	「ーをスタンバイにする	
サーバー(外部PC) <mark> [ PX740MC123 - Gho</mark> コッイル(E) 表テのの /	側> st Multicast Server			
ファイルヘビン ふくいへいごう	SESS123	かライアントトニロート*(L)	ウライアントからタンフ (D)	
イメージファイル	F:¥ゴーストイメージ¥px740mc123.g	ho	参照(8)	
<ul> <li></li></ul>			オプジョンを増やす()	2) >>
IP アドレス	/   MAC アドレス	他		5(A)
			送信(5)	1
」 速度 (MB/分)	MB 転送しました	経過時間	接続しているりライアント	0
% 完了	MB 残っています	残り時間	失敗したりライアント	0
クライアントの接続待ち・・・				
2212210018020102	I			)
< クライアント	(FIVA)側 >	·側にて、"Y"を選択		
	teel 2001 - Francisch (f) 1992 - 2005 Semanlar Francescher			
-	nei Décele			
**	71 41	758 100E		
		2.17		
	nami Analysis (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	$\sum$		
Coma Searco Decta	Long Long Long Long CL1, 19473 Hb Long Huber CL1, 19473 Hb Long Huber CL1, 19473 Hb			
Gara	at the UNICOPYREMIC SECTOR			
	SYMANTEC.	クラ・	イアント側リカバリー実行中画の	5



# 補 足

8. 補足

### <u>8-1.PCカードブート版リカバリーのPCカード作成</u>

専用 P C カードを作成するには、以下の環境を準備します。手順としては、 P C カードに、 M S - D O S のシステムを転送すること により、 P C カードブート可能にし、リカバリー作業に必要なファイルを、 P C カードにコピーします。

**注意**; USBまたはIEEE1394インターフェースのPCカードドライブは、システム転送ができないことがあります。 ISAまたはPCIインターフェースのものをお使いください。





#### PC カードをフルフォーマットします。 PC カードを入れたドライブを右クリックし、フォーマットを選択します。



BIOS 画面は、電源投入後 CASIO ロゴが表示中に "F2"キーを押すと BIOS 画面になります。



MS-DOS画面にて、**PCカードドライブレターから、以下のコマンドを実行**します。必要なファイルがPCカードに転送されます。

ちなみに、"D:"は、PCカードブートした時の、リカバリー領域のドライブレターです。

注意)

付属のリカバリーCDROMで本体ハードディスクをリカバリーした直後は、ドライブレターの指定に注意が必要です。以下のパッジ実行時には、PCカードから観た、リカバリー領域のドライブレターを指定するようにしてください。

C:¥>D:¥MKCARD.BAT		

参考)"MKCARD. BAT"のファイルは、工場出荷時にリカバリー領域のファイルとして収められています。

これで、専用PCカードは完成です。PCカードを挿入したまま、本体を再起動すると、"**Bモードリカバリー[PCカードブート版**] が実行されます。(ただし前もって、BIOS上で、**PCMCIAを有効**にしておく必要があります。)



### <u>8 - 2 .ブータブルのリカバリーCDROM 作成方法</u>

バックアップした Windows2000 **領域イメージ**、または、**リカバリー領域イメージ**、または**ハードディスク全体イメージ**を、ファイ ルとして保存するだけでなく、それを**ブータブルリカバリーCDROM として作成することも可能です**。作成された CDROM は、元の 領域またはハードディスクを復元することができます。 その手法は、

- ・<u>本体(FIVA)ハードディスクのリカバリー領域に保存されている、Windows2000</u> 領域バックアップファイルを、 <u>ブータブルリカバリーCDROM化する方法</u>。
  - \* バックアップファイルが、[CDR/RWメディア容量 (マイナス) 10Mバイト]を超えるものは、CDROM化できません。



・<u>PCサーバーに保存された、本体(FIVA)の Windows2000</u> 領域、またはリカバリー領域、または、本体ハード ディスク全体のバックアップファイルを、ブータブルリカバリーCDROM化する方法があります。





### 本体リカバリー領域内のバックアップファイルをリカバリー CDROM化

本体のリカバリー領域に保存した、Windows2000領域バックアップファイルを、1枚のブータブルリカバリーCDROMとして作成す ることができます。ただし、[CDR/RWメディア容量 - (マイナス) 10Mパイト]を超えるものは、CDROM化できません。(600M-10M) バイトを超えると思われるパーテッィションまたはドライブを、イメージCDROM化したい場合は、マルチキャストサーバー(600M自動分割スパ ン)を使用してください。本体(FIVA)でこれを作成するには、CDR/RWメディアに焼き込むCDR/RWドライブ(外付け)が 必要です。



#### 準備するもの)

- ・CDR/CDRWライターソフト(WinCDR等。ただし、**ISO9660フォーマット**可能なもの)
- ・CDR/RWドライブ(PCMCIAインターフェース。焼き込み用。)
- ・CDR/RWメディア(640Mバイト以上)
- ・FDドライブ(USBインターフェース)
- ・WindowsMeまたはWindows98で作成した起動FD
- ・CDROM ドライブ(ブータブルリカバリーを実行する時)
- ・上記 CDROM ドライブのドライバ

#### 

- 1. Windows98SE 環境において、起動 FD(第3章 Windows2000 インストール編を参照)を作成します。
- 2. その起動 FDに、リカバリー時に使用する外付け CDROM ドライブのドライバを組み込みます。
  - 例)リカバリー時、MPC-142(CDROM ドライブ)を使用するなら、以下のドライバを FD に組み込みます。
    - KMEKATCD.SYS
    - ATAK365.SYS
      - これらのファイルは本体同梱のリカバリーCD-ROMの中の DOSDRVの中にあります。
- 3、復元処理をバッチ実行するために、起動 FD の AUTOEXEC.BAT を編集し、以下のようなフレーズを追加してください。

以下はあくまでも例です。パーティションの切り方等によってフレーズは変わります。詳細は Symantec Ghost Ver6.5 の Ghost\_Guide.pdf のコマンドラインをご参照ください。

- 例) Ghost.exe -clone,mode=pload,src=Z:¥PX740P1.gho:1,dst=1:2 -ntchkdsk -ntd -sure -auto -batch
- 注意)ドライブレター(Z:)は、CDROM ドライブ組み込みの際のドライブレターと一致させておく必要があります。必要に応じて修正してください。

4.市販ライターソフトの実行

本体にインストールしたライターソフトを起動します。必要な処理は以下です。

・焼き込むデータの選択。

• PX740P1.GHO



• GHOST.EXE

- ・ ブータブルの項目をイネーブルにし、ディスクフォーマット ISO9660 を選択。
- ・ ブータブル CD として作成します。この時、1,2,3 で作成した FD を要求されます。
- ・焼き込み実行。

<u>\*具体的な操作方法は、使用されるライターソフトの操作仕様に委ねます。</u>



### <u>サーバー内のバックアップファイルをリカバリーCDROM化</u>

サーバーに保存した以下のバックアップファイルのいずれかを、1枚ないし数枚のブータブルリカバリーCDROM として作成することができます。焼き込めるファイルは、600M バイトまたはそれ以下に分割されたスパンイメージファイルです。

- ・Windows2000 領域バックアップファイル(\*.GHO)
- ・リカバリー領域バックアップファイル(\*.GHO)
- ・ハードディスク全体バックアップファイル (\*.GHO)



・CDR/CDRWライターソフト(WinCDR等。ただし、**ISO9660フォーマット**可能なもの)

・CDR/RWドライブ(焼き込み用)

準備するもの)

- ・CDR/RWメディア(640Mバイト以上)
- ・Windows Meまたは Windows 98で作成した起動 FD
- ・CDROM ドライブ(ブータブルリカバリーを実行する時)
- ・上記 CDROM ドライブのドライバ

- 1. Windows98SE 環境において、起動 FD(第3章 Windows2000 インストール編を参照)を作成します。
- 2. その起動 F D に、リカバリー時に使用する外付け CDROM ドライブのドライバを組み込みます。
  - 例)リカバリー時、MPC-142(CDROM ドライブ)を使用するなら、以下のドライバを FD に組み込みます。
    - KMEKATCD.SYS
    - ATAK365.SYS

これらのファイルは本体同梱のリカバリーCD-ROM の中の DOSDRV の中にあります。

3. 復元処理をバッチ実行するために、起動 FD の AUTOEXEC.BAT を編集します。以下のフレーズを追加してください。

以下はあくまでも例です。パーティションの切り方等によってフレーズは変わります。詳細は Symantec Ghost Ver6.5 の Ghost\_Guide.pdf のコマンドラインをご参照ください。

#### <領域リカバリーの時>

- 例) Ghost.exe -clone,mode=pload,src=Z:¥PX740P1.gho:1,dst=1:2 -ntchkdsk -ntd -sure -auto -batch
- <ハードディスクリカバリーの時>
- 例) Ghost.exe -clone,mode=load,src=Z:¥\*.gho:1,dst=1 -ntchkdsk -ntd -sure -auto -batch

注意)ドライブレター(Z:)は、CDROM ドライブ組み込みの際のドライブレターと一致させておく必要があります。必要に応じて修正してください。

- 4.市販ライターソフトの実行
  - 本体にインストールしたライターソフトを起動します。必要な処理は以下です。
    - ・ 焼き込むデータの選択。
    - <例>・PX740P1.GHO
      - GHOST.EXE
    - ・ ブータブルの項目をイネーブルにし、ディスクフォーマット ISO9660 を選択。
    - ・ ブータブル CD として作成します。この時、1,2,3 で作成した FD を要求されます。



・ 焼き込み実行。

2 枚目以降がある場合は、各 600M のデータを、1 枚ずつ焼き込みます

\* 具体的な操作方法は、使用されるライターソフトの操作仕様に委ねます。

### 作成されたブータブルリカバリー CDROM によるリカバリー作業

出来上がったブータブルリカバリーCDROM によりブートし、元の領域またはハードディスク全体を復元できます。

ただし、**領域の復元は、ハードディスクの区画設定が、出荷時の設定と同じになっていることが前提です。**例えば、新規のハードディスクやフォーマットしたハードディスクに、領域のブータブルリカバリーはできません。これを領域リカバリーできる状態にするには、製品に添付されているリカバリーディスクによりハードディスク全体をリカバリーすれば、区画も設定されるので、領域のリカバリーは可能です。

ハードディスク全体のバックアップファイルをブータブルリカバリーCDROM化したものにおいては、区画設定がなされてなくても、 リカバリーは可能です。

#### < 操作方法 >

- 1. 出来上がった CD-ROM を CD-ROM ドライブにいれ、FIVA の電源を ON します。この時 BIOS 設定で PCMCA BOOT が Enable に なっていることが条件です。
- 2. あとはリカバリーシステムの指示に従ってください。







CASSIOPEIA

5 I V A

本章では、CASSIOPEIA FIVA 225 (以下 FIVA と明記)のリカバリ CD-ROM に関して記載しています。

## 2 . リカバリ CD-ROM の機能概要

リカバリ CD-ROM には、以下の2つの機能(メニュー)があります。

- (1) ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール
- (2) 保守領域へのリカバリプログラムのインストール

### 2-1.「ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール」について

ハードディスクを出荷時と同じパーティション構成にし、全てのパーティションを FAT32 でフォーマット します。ハードディスクのフォーマット後、保守領域にリカバリプログラムのインストールを行います。



本処理は、以下の場合に応用可能のです。

- (1) バックアップが無い状態での Microsoft Windows 2000 のインストール。
- (2) 出荷設定の NTFS フォーマットを FAT32 フォーマットに変更する。
   後に Windows2000 のインストールが必要です。

### 2-2.「保守領域へのリカバリプログラムのインストール」について

保守領域にリカバリプログラムのインストールを行います。 本処理は、ハードディスクのパーティション構成が出荷時と同じ(フォーマットタイプは考慮しない)場合 のみ実効されます。パーティション構成が出荷時と異なる場合は処理を中断します。

```
(注意) ・基本領域とユーザー領域へのインストール処理は一切行われません。
```



## 3. デバイス類の準備

リカバリを実行するに当り、以下のものが必要となります。

- ・ FIVA 本体
- ・CD-ROM ドライブ(MPC-142CDD) もしくは DVD ドライブ(MPC-245DVD) 以下、「CD-ROM ドライブ」と記してある部分は、「CD-ROM ドライブもしくは DVD ドライブ」となります。また、DVD ドライブを 使用する場合は、16bit モードで使用して下さい。
- ・FIVA Recovery CD-ROM (本体同梱)

### **4** . リカバリ CD-ROM の操作説明

以下に、リカバリの操作手順と2つの機能について記述します。

### 4-1 デバイス類のセット

(1) CD-ROM ドライブにリカバリ CD-ROM をセットし、FIVA に CD-ROM ドライブを装着してください。

### 4-2 BIOS の設定

リカバリ CD-ROM はブータブルな CD-ROM で、CD-ROM からブートさせる事で自動的にリカバリプログラムが 起動する仕組みになっています。CD-ROM から起動させる為に、BIOS の設定を変更する必要があります。

- (1) FIVA の電源を入れます。
- (2) 「CASIO」ロゴが表示されて2~3秒後に[F2]キーを押下し、BIOS 設定画面に移行します。
- (3) BIOS 設定をデフォルトにします。
  - この処理は、必ずしも必要では在りませんが、念のために実施する事をお奨めします。



[EXIT]-[Load Setup Default]を選択し、[Enter]キーを押下します。

(3) PCMCIA-Card ブートを「可」にします。





[Boot]-[PCMCIA BOOT]を'Disable'から'Enable'に変更します。

(4) 設定を保存して終了します。



[Exit]-[Exit Saving Changes]を選択し、[Enter]キーを押下します。

(5) 再起動させます。

(4)を実行すると確認メッセージが表示されますので、[Y]を選択します。

FIVA が再起動し、CD-ROM からブートします。

4-3 ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール

(1) リカバリプログラムが起動すると以下の画面が表示されます。



(1)を選択します。(上記画面を「メインメニュー」と呼びます。)



(2) ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストールの実行確認の画面が表示されます。



- 実行する場合は大文字のY、処理を中止する場合は大文字のNをキー入力します。
- 処理を中止した場合は「メインメニュー」に戻るか否かの選択画面になります。
- (3) 処理実行を選択すると、ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストールを実行中である 事を示す以下の画面が表示されます。



(4) 処理が完了すると以下の画面が表示されます。



「メインメニュー」に戻る場合は1、リカバリ処理を終了し電源 OFF する場合は0 をキー入力します。

以上で、ハードディスクが初期化され、リカバリプログラムが保守領域にインストールされました。 FIVA本体に接続されているデバイス類を全て取り外し、OSスイッチをBモードにして電源を入れて、正常に リカバリプログラムが起動する事を確認してください。



### 4-4 保守領域へのリカバリプログラムのインストール

(1) リカバリプログラムが起動すると以下の画面が表示されます。



(2)を選択します。

(2) 保守領域プログラムのインストールの実行確認の画面が表示されます。



実行する場合は大文字のY、処理を中止する場合は大文字のNをキー入力します。 処理を中止した場合は「メインメニュー」に戻るか否かの選択画面になります。



(3) 処理実行を選択すると、リカバリプログラムのインストールを実行中である事を示す以下の画面が表示されます。



この場合は、「ハードディスクの初期化とリカバリプログラムのインストール」を実行してください。

(4) 処理が完了すると以下の画面が表示されます。



「メインメニュー」に戻る場合は1、リカバリ処理を終了し電源 OFF する場合は0 をキー入力します。

以上で、リカバリプログラムが保守領域にインストールされました。

FIVA 本体に接続されているデバイス類を全て取り外し、OS スイッチをBモードにして電源を入れて、正常に リカバリプログラムが起動する事を確認してください。

### **5** . Windows2000 をインストールする

リカバリ CD-ROM では、保守領域にリカバリプログラムをインストールしますが、基本領域・ユーザー領域に 関しては一切のリカバリ処理を行いません。

よって、基本領域に Windows2000 をインストールする場合は、別途「第3章 Windows2000 インストール編」を参照 してください。







## 1.はじめに

本章では、新規のハードディスク(以下 HD と明記)に Microsoft Windows 2000(以下 Win2K と明記)を セットアップする手順について記載しています。

本章で記載されている内容は、(1) バックアップが無い状態でのWin2Kのインストールや、(2) 出荷設定のNTFS フォーマットを FAT32 フォーマットに変更する (Win2Kのインストールが必要です。)場合に実施します。

本章では、以下を前提とした記載をしています。

- (1) スタンドアローンの CASSIOPEIA FIVA 225 (以下 FIVA と明記)に対してセットアップを行う。
- (2) Win2K はCドライブ(基本領域)にセットアップを行う。
- (3) HD のパーティション構成が以下の状態である。(「HD の準備」を参照。) ・パーティション数および各パーティションサイズは出荷時 HD と同じ。
  - ・基本領域とユーザー領域のフォーマットはNTFS ではなく FAT32 である。



## 2.セットアップまでの手順

セットアップを開始するまでの手順概略を以下に示します。 1.HD の準備

2. デバイス類の準備

- 3. 起動 FD の作成
- 4. セットアップデータの準備
- 5.セットアップの実行

## **3**.HDの準備

HD はパーティション構成を出荷時と同じ状態にしておく必要があります。 パーティション構成を出荷時と同じにするには、リカバリ CD-ROM を利用します。 リカバリ CD-ROM の操作方法については、別途「第2章リカバリ CD-ROM 編」の、"1.「ハードディスクの初期 化とリカバリプログラムのインストール」について"を参照してください。



## 4.デバイス類の準備

Win2Kをセットアップするに当り、以下のものが必要となります。

- ・FIVA本体
- ・CD-ROM ドライブ(MPC-142CDD)もしくは DVD ドライブ(MPC-245DVD)
   以下、「CD-ROM ドライブ」と記してある部分は、「CD-ROM ドライブもしくは DVD ドライブ」となります。
   また、DVD ドライブを使用する場合は、16bit モードで使用して下さい。
- ・USB FD ドライブ
- Win2K CD-ROM
- FIVA Recovery CD-ROM
- ・FD(2HD 1.44MB)1枚

## **5**. 起動 FD の作成

Win2K をセットアップする為の DOS ベースの起動 FD を作ります。起動 FD は、Windows98SE がインストールされている コンピュータを利用して作成します。

1.上記 Windows が起動しているコンピュータの FD ドライブに FD をセットします。

2.FD を「起動専用」でフォーマットします。

(エクスプローラを開き、Aドライブ部を右クリック フォーマットと指定する事で実行できます。) この時点で、FDには以下の4ファイルが存在します。

Command.com DRVSPACE.BIN IO.SYS MSDOS.SYS

3. config.sys を作成&編集します。

スタートメニュー プログラム アクセサリ メモ帳を開き、以下の内容を入力してファイル名 config.sys で FD に保存します。

BUFFERS=20 FILES=60 LASTDRIVE=Z DEVICEHIGH=HIMEM.SYS DEVICEHIGH=BILING.SYS DEVICEHIGH=RAMFD.SYS DEVICEHIGH=ATAK365.SYS /port=190 /mem=CE00 DEVICEHIGH=ATAK365.SYS /port=190 /mem=CE00 DEVICEHIGH=ATAK365.SYS /port=190 /mem=CE00 DEVICEHIGH=DUOATACD.SYS /D:CD001 DEVICEHIGH=DUOATACD.SYS /V DEVICEHIGH=JFONT.SYS /MSG=OFF DEVICEHIGH=JFONT.SYS /MSG=OFF

DEVICEHIGH=JDISP.SYS /HS=LC DEVICEHIGH=JKEYB.SYS /106 JKEYBRD.SYS DEVICEHIGH=ANSI.SYS

#### 4. config.sys に記載した全ての.sys を FD にコピーします。

これらのファイルは、¥windows / ¥windows¥command ディレクトリ、およびリカバリ CD-ROM の DOSDrv ディ



レクトリに存在します。

HIMEM.SYS ··· <windows98se>¥windows¥</windows98se>
BILING.SYS ··· <windows98se>¥windows¥</windows98se>
RAMFD.SYS ··· <recoverycd-rom>¥DOSDRV¥</recoverycd-rom>
ATAK365.SYS ··· <recoverycd-rom>¥DOSDRV¥</recoverycd-rom>
KMEKATCD.SYS ··· <recoverycd-rom>¥DOSDRV¥</recoverycd-rom>
DUOATAPE.SYS ··· <recoverycd-rom>¥DOSDRV¥</recoverycd-rom>
DUOATACD.SYS ··· <recoverycd-rom>¥DOSDRV¥</recoverycd-rom>
JFONT.SYS ··· <windows98se>¥windows¥</windows98se>
JDISP.SYS ··· <windows98se>¥windows¥</windows98se>
JKEYB.SYS ··· <windows98se>¥windows¥</windows98se>
ANSI.SYS ··· <windows98se>¥windows¥command¥</windows98se>

5.autoexec.bat を作成&編集します。

スタートメニュー プログラム アクセサリ メモ帳を開き、以下の内容を入力してファイル名 autoexec.bat で FD に保存します。

#### @echo off

MSCDEX.EXE /D:CD001 /L:Z set EXPAND=YES set DIRCMD=/0:N set LgIDrv=27 \* 26 Z 25 Y 24 X 23 W 22 V 21 U 20 T 19 S 18 R 17 Q 16 P 15 set LgIDrv=%LgIDrv% 0 14 N 13 M 12 L 11 K 10 J 9 I 8 H 7 G 6 F 5 E 4 D 3 C

SMARTDRV.EXE

6.autoexec.bat に記載した MSCDEX.exe と SMARTDRV.exe を FD にコピーします。 これらのファイルは、¥windows / ¥windows¥command ディレクトリに存在します。

MSCDEX.EXE ··· </br>

Windows98SE>¥windows¥

SMARTDRV.EXE ··· 

Windows98SE>¥windows¥command¥

### 7. その他、以下の5つのファイルをFD にコピーします。

ANK16.FNT ··· <Windows98SE>¥windows¥ ANK19.FNT ··· <Windows98SE>¥windows¥ KANJI16.FNT ··· <Windows98SE>¥windows XCOPY.EXE ··· <Windows98SE>¥windows¥command¥ XCOPY32.MOD ··· <Windows98SE>¥windows¥command¥



以上で起動 FD の作成は終わりです。以下に、起動 FD のセットされたファイル一覧を示します。

COMMAND.COM ANK19.FNT ANSI.SYS ATAK365.SYS autoexec.bat BILING.SYS ANK16.FNT CONFIG.SYS DRVSPACE.BIN DUOATACD.SYS DUOATAPE.SYS HIMEM.SYS IO.SYS JDISP.SYS JFONT.SYS JKEYB.SYS JKEYBRD.SYS KANJI16.FNT KMEKATCD.SYS mscdex.exe MSDOS.SYS RAMFD.SYS SMARTDRV.EXE XCOPY.EXE XCOPY32.MOD

合計25ファイル



## 6.セットアップデータの準備

FIVA に Win2K をセットアップするためのデータを構築します。

- 1.FIVA に CD-ROM ドライブと FD ドライブを装着します。
- 2.FD ドライブに前章で作成した起動 FD をセットします。
- 3.0SスイッチをAモードにします。(OSスイッチは本体右横 電源コネクタ近くにあります。)
- 4. FIVA の電源を入れます。(FD から起動します。)

FD からの起動が完了すると、各ドライブレターは以下の様になります。

FD = Aドライブ CD-ROM = Zドライブ 基本領域 = Cドライブ コーザー領域 = Dドライブ りかいり領域 = Eドライブ

(注意) 出荷時のHDでは、リカバリ領域は隠しドライブとなっていますが、リカバリ処理を行った場合、 リカバリ領域は通常の可視ドライブになります。リカバリ領域を隠しドライブとする場合は、Win2K のセットアップ完了後に手動で行う必要があります。(隠しドライブにする方法については、 Windows2000のヘルプを参照してください。)

### 5. Win2K セットアップデータをコピーします。

- CD-ROM ドライブに Win2K CD-ROM をセットします。セットアップデータは必ずD ドライブにコピーします。
- (1) Dドライブに i386 ディレクトリを作成します。A:> mkdir D:i386 [return]
- (2) Win2K CD-ROMのi386 ディレクトリ下の全ファイル(サブディレクトリを含め全て)をDドライブに 作成したi386 ディレクトリ下にコピーします。(5526 個のファイルがコピーされます。)
   A:> xcopy /E Z:¥i386¥\*.\* D:¥i386¥. [return]
- 6. FIVA 固有の Win2K 用ドライバをコピーします。

CD-ROM ドライブから Win2K CD-ROM を取り出し、リカバリ CD-ROM をセットします。 ドライバはリカバリ CD-ROM の CDrivers ディレクトリに収められています。ドライバのコピー先は任意の 場所で問題ありません。(以下は、Dドライブにコピーする例です。)

- (1) Dドライブに CDrivers ディレクトリを作成します。A:> mkdir D:CDrivers [return]
- (2) リカバリ CD-ROM の CDrivers ディレクトリ下の全ファイル(サブディレクトリを含め全て)を(1)で作成 したディレクトリ下にコピーします。

A:> xcopy /E Z:¥CDrivers¥\*.\* D:¥CDrivers¥. [return]

### 7.CD-ROM ドライブから取りリカバリ CD-ROM を出します。

(注意) この時点で、Cドライブはクリアな状態(ファイルが無い)である必要があります。



## 7.セットアップの実行

Win2Kのセットアップを行います。

セットアップを行うには、D:¥i386¥WINNT.exeを実行します。

A:> D: [return]

D:> cd ¥i386 [return]

D:> WINNT [return]

セットアップが開始されますので、ここからは画面の指示に従ってセットアップを進めてください。

(注意1) Win2K は必ずCドライブにセットアップしてください。(セットアップ中に、セットアップ先の ドライブを指定する場面があります。)Cドライブにセットアップしないと、Aモードでの起動が できなくなります。

(注意2) Win2Kクリーンインストール時、指示が無いと、FAT32でセットアップされます。

これはリカバリで、HDDの領域確保をDOSで行っているための制約です。

インストール時、NTFSへのフォーマット形式変換を選択して下さい。

(注意3) セットアップ終了後DドライブをNTFSへフォーマット形式を変更してください。

詳しくはWindows2000のヘルプを参照してください。

また、Win2Kのセットアップに関しては、Microsoftのホームページにも多くの情報が記載されています。 参考にして下さい。

http://www.microsoft.com/japan/windows2000/guide/professional/setupguide/default.asp

## 8.ドライバおよびアドオンソフトについて

リカバリ CD-ROM には、FIVA 専用のドライバやアドオンソフトが同梱されています。 これらは、自動でインストールされませんので、Win2K のセットアップ完了後、適時セットアップする必要が あります。以下に、これらのセットアップについて記述します。

### 8-1 ドライバのセットアップ

(1) **CD - ROMドライバ** 

CD-ROM ドライバは、Windows2000 にて自動に認識されます。

(2) ビデオドライバ

ビデオドライバは CDrivers¥video ディレクトリにあります。 ドライバをセットアップするには Setup.exe を実行します。 セットアップ完了後、[画面のプロパティ]-[設定]を開き、800×600/16bit に設定してください。

(3) ポインタドライバ

ポインタドライバは CDrivers ディレクトリにあります。 Win2K のセットアップ完了後は、マウスドライバは PS/2 に設定されています。 [コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]-[マウス]を右クリックし、[プロパティ]-[ドライバ]タブ-[ドライバの更新] を実行して、ドライバを「PS/2」から「ポインタ」に変更してください。



#### (4) IDE **ドライバ**

IDE ドライバは CDrivers¥IDE ディレクトリにあります。 ドライバをセットアップするには Setup.exe を実行します。 セットアップ完了後の操作は一切ありません。

(注意) IDE ドライバのセットアップは、[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]を開き、[IDE ATA/ATAPI コントローラ]に"!"マークが表示されている場合のみ実行する様にしてください。

### (5) オーディオドライバとモデムドライバ

オーディオドライバは、¥CDrivers(AliOEM7.INF)ディレクトリにあります。 [コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]-[その他のデバイス]-[マルチメディア オーディオ コントローラ]を選択して、[ドライバの更新]を実行します。

(注意1) 途中モデムドライバのインストールを促されます。下記のメッセージが表示された場合は、モデムドラ イバの場所をご指定ください。

<メッセージ:Lucent Technologies Soft Modem WinNT Drivers Disk 1上のファイル'LTSM.sys'が必要です。>

(注意2)[デバイスドライバのアップデートウィザード]画面が表示されたら、メッセージに従って、途中、[サウンド、ビデオおよびデームコントローラ]を選択し、[ディスク使用]ボタンにて、ドライバの場所を指定します。また、[デジタル署名が見つかりませんでした "ALi Audio Accelerator WDM driver"]画面が表示された場合は、[はい]を選択してください。

### (6) **LANドライバ**

LANドライバは、¥CDrivers(netrts5.INF)ディレクトリにあります。

[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]-[ネットワークアダプタ]の"Realtek RTL8139(A) PCI Fast Ethernet Adpter"で[ドライバの更新]をおこなってください。

(注意) 途中"Realtek RTL8139(A/B/C/8130) PCI NIC"をFast Ethernet選択します。

(7) その他のドライバ

その他リカバリCD-ROMには、プリンタドライバ・CD-ROMドライバ・DVDドライバなどが収録されています。 ドライバの種類とファイル名は、リカバリCD-ROMのreadme.txtファイルに全て記載されています。

なお、セットアップに、ドライバ設定ファイル(INFファイル)を使用する場合は、セットアップ途中に、 リカバリCDの「CDRIVERS」フォルダ、あるいは、そのCOPY先を指定する必要があります。



### 8-2 **アドオンソフトのセットアップ**

#### (1) MobileCockpit

MobileCockpit はAdonSoft¥MC2¥Disk1ディレクトリにあります。 MobileCockpit をセットアップするにはSetup.exeを実行します。

#### (2) Acrobat Reader5.0

Acrobat Reader5.0はAdonSoft¥Acroread ディレクトリにあります。 Acrobat Reader5.0をセットアップするにはar500jpn.exe を実行します。

#### (3) FIVA 専用壁紙

FIVA 専用壁紙は AdonSoft ¥Wallpp ディレクトリにあります。 FIVA 専用壁紙をセットアップするには Setup.exe を実行します。

### (4) HD**識別ファイル**

HD識別ファイルはAdonSoft¥CASIOVERディレクトリにあります。 HD識別ファイルをセットアップするにはSetup.exeを実行します。

(制約) Setup.exeを実行すると、HD識別ファイルは、セットアップされますが、セットアッププログラムが終了し ません()。「完了」ボタンを押した後は、キャンセルボタンで、セットアッププログラムを終了してく ださい。

完了ボタンを押しても、繰り返し「上書き確認」のメッセージが表示されます。

(注意) HD 識別ファイルは、トラブルが発生して問い合せを行う場合に必要となる事があります。 リカバリ後は、HD 識別ファイルのセットアップを必ず行う様にしてください。

アドオンソフトの種類とファイル名は、リカバリ CD-ROM の readme.txt ファイルに全て記載されています。

## FIVA JJJIJ - Z = JJI

(品番MPC-225BS/225BL) 初版 2001年10月

### カシオ計算機株式会社

本社 東京都渋谷区本町1-6-2


## カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1-6-2 TEL :03-5334-4638 FAX :03-5334-4408